

サンクトペテルブルクの物流の現況と効率アップの希望

実施日： 2008年4月25日

報告者：(株)近鉄エクスプレス
重松

(株)近鉄エクスプレスの重松です。本日はお招きを頂き感謝申し上げます。また報告の機会を頂き、重ねて御礼申し上げます。

昨年末まで現地法人近鉄ロシアのサンクトペテルブルク事務所に駐在しておりました。現在は近鉄東京トランスコンテナセンターにてロシア・CIS 向け海上・ロシア鉄道一貫輸送を担当しております。

K-LINE 殿がサンクト港、海上貨物輸送等お話がありましたので小職は航空貨物輸送、トラック貨物輸送、そして鉄道輸送についてお話したいと思います。

本日お話ししたい問題点は、3つあります。

1) 航空貨物輸送

ご存知と思いますが航空輸送は通常緊急貨物である場合がほとんどです。そのためプルコボ空港では、一分、一秒でも早く通関、または保税転送を実施しなければなりません。

なぜならば、緊急貨物にて工場の生産ラインが、一分、一秒でも遅れると一時的にストップとなり 多大な損失、損害に繋がる可能性があるからです。

ところで最近起こったことですが、プルコボ空港の空港職員が制服を新調するための寸法測定に出払ってしまい、スタッフが少なくなったため保税転送許可が出せず、通常当日切れるはずの許可が翌日に延期になったとの事です。

是非、航空貨物は緊急性の高いものにてプルコボ空港税関職員の対応改善をお願いする次第です。

2) フィンランドからのトラック貨物輸送

本輸送もモスクワ、サンクト大都市市場への大変重要な輸送手段となっております。しかし、昨年の駐在体験でもフィンランド・ロシア国境税関にて 10km の車の渋滞、順番待ちが発生し、そのため 1 日国境で待機せざるを得ない状況が実際ありました。従って、予想を超えて、輸送時間にかかっている現状があります。

3) ロシア鉄道コンテナ貨物輸送

今後、トヨタ殿、日産殿、スズキ殿等がロシア鉄道輸送の活用利用を真剣に

検討しており、将来に向けて需要が増えてきそうです。そこで 20Feet、40Feet コンテナのサンクト側の駅の受け入れ体制である設備、ヤードの現状は如何でしょうか？

以上の如く、航空貨物輸送、トラック貨物輸送、ロシア鉄道貨物輸送の問題点等お話ししましたが、サンクトペテルブルク市の投資案件における輸送、税関、配送、ロジスティック他 インフラ整備案件の位置づけについていままではどのように対応されていたのでしょうか？そして、今後はどのようなご計画があたりでしょうか？

(最後をお願いとして)

弊社(株)近鉄エクスプレスでは、引き続きロシア・CIS 市場向けに注力しておりますが、トラック代、鉄道代の運賃等の安定こそが、中期的な安定・取引拡大に繋がりますので、急激な大幅な運賃値上げは是非避けて頂きたいと思えます。

以上 ご静聴ありがとうございました。